

冬休み前アセンブリー

去年は、大阪・関西万博のお話や、過去に世界中で開催された万博で展示された、発明品をいくつか紹介しました。また、アニメ「ドラえもん」で取り上げられた“未来の道具”、そのうち現在、実現しているもの、例えば、携帯電話や音声翻訳機能、3Dプリンターなどのお話をしました。私たちは今、「令和」の時代を生きていますが、昭和という時代が今も続いていたとすると、今年がちょうど100年目の節目の年となりますので、去年は、過去から現在につながるお話をしました。ですから、今年は、**未来の話**をしたいと思います。今、世界では「汎用人工知能（AGI）」と呼ばれる新しいタイプのAI（人工知能）の開発が進んでいます。これまでのAIは、囲碁を打つ、翻訳をする、文章を書くなど、限られた分野に特化したものでしたが、汎用人工知能は、“人間のよう幅広い分野で学び、考え、そして判断すること”を目指したものです。まるで“人工の脳”をつくるような挑戦です。その最先端の研究の一つが、「脳細胞と電気回路を組み合わせた人工知能」の試みです。研究者たちは、人間やマウスの脳細胞を培養し、そこに電極をつなげ、コンピュータと情報をやり取りさせる実験をしています。例えば、オーストラリアの研究チームからは、培養した脳細胞に「ピンポンゲーム（Pong）」を学ばせたところ、わずか数分でボールの動きを予測して反応する能力を示したと報告されています。生きた細胞と電気回路がつながり、学習という行動を示した瞬間です。こうした「バイオ・コンピューティング」は、AIが単なるプログラムではなく、生物の知性に近づく可能性を示していると言われています。同時に、これらの試みでは、脳細胞を使うことへの倫理的な問題も議論されています。人間の細胞を使って「思考する装置」を作ること、どこまで許されるのか。命と知能の境界をどう考えるのか？科学はどんどん進歩を続けていますが、そこには必ず“人間としての判断”が求められます。AIがどれほど進化しても、まだまだできないこともあります。それは「他者を思いやること」や「自分の心で感じること」です。AIは感情を“理解するふり”はできますが、悲しみや喜びを“感じる”ことはできません。ですから、人間の感性や想像力、そして倫理観こそが、これからの時代、いっそう大切なものとなります。冬休み期間中、こうした科学のニュースに少しでも興味・関心をもっていただけたらいいなと思っています。そして、興味が湧いたら、「AIができること」、「人にしかできないこと」などについて、色々と調べてみてください。自分の考えを持つことは、未来を生きる力につながる大切な要素となります。科学の発展を恐れず、しかし盲目的に信じることもなく、自分の頭で考える姿勢を忘れないでほしいと思います。

CL発表会

今年は、クラス内で発表したのち、各クラス2名ずつ、工業科は1名ずつ選出され、学年全体での発表会が行われました。地域の環境や行事について、3年次では進路についての内容もあり、各学年とても見応えのある発表会となりました。CLを通じて様々な分野への学びを深めるきっかけになればと思います。



年末・年始 今後の行事予定

12/24(水) アセンブリー
(冬休み前)

1/8 (木) アセンブリー
(冬休み後)

1/19(月)～23(金)
後期期末考査(3年次)

1/21(水) 保健講演
(1年次)

1/29(木) 特色化選抜入試
【自宅学習 予定】